

ふれあい

# さいせい



発行

済生会西条病院  
2023年新春号 第91号

西条市朔日市269-1  
TEL(0897)55-5100



梅 撮影：総務課車両係 吉本真夫

### ごあいさつ

院長 岡田 眞一

### 肝癌の話

副院長 上甲 康二

### 肝臓がんの薬物療法

薬局 佐伯 綾香

### 肝臓がんの食事のポイント

栄養科長 越智 泉

### 院内学会を開催しました

医療秘書課 高岡 真弓

### オレンジカフェ(認知症カフェ)

西条地域包括支援センター 宇佐美佐緒里

### 部署紹介 施設管理課

施設管理課 高橋 明

### 5階東病棟のリハビリテーション

リハビリテーション科 加藤 克大

### 地域とのつながりで菊観賞に誘われて

老人保健施設いづち苑 奥山 博文

### クリスマスリース作り

特別養護老人ホーム 中野 佳弥

## ごあいさつ

院長 岡田眞一



院長  
岡田 眞 一

みなさん新年明けましておめでとうございます。

2023年はどのような年になるのでしょうか。3年余り続いている新型コロナウイルス感染症が今年こそは終息するのか、感染症法上の分類2類相当から5類に見直されて、インフルエンザと同じ扱いになるのかなどが気になるところです。

さて、当院は昭和33年の開設後、昭和61年に当地に新築移転してきました。その後36年が経過して建物の老朽化や狭隘化が目立ってきたため、令和3年12月から、現在の病院前北側駐車場に6階建ての新病棟を建築、南棟と東棟は残して本館を壊して改築する計画で工事が始まりました。しかし、現在世界情勢が不安定で資材等の高騰があり、資金不足のため計画の変更をせざるを得なくなりました。新病棟完成後、本館はそのまま残して、その1階と2階の一部を改築して利用することになりました。外科、整形外科、脳神経外科の外来と放射線部門、内視鏡部門は本館に残ります。工事は予定より遅れが出ていますが、順調に進めば本年8月頃に終わり、新病棟が完成する予定です。新病棟には感染症病床2床が増床となります。工事が始まって

から、病院を受診される皆様には、入口が分かりにくいことや駐車場から玄関までの距離が長いことなどでご迷惑をお掛けしております。本館を壊さなくなったことから、これからもこの状況が続くことになります。大変申し訳ありませんが、諸事情をご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。

今年が新型コロナウイルス感染症の終息の年となり、また戦争のない平和な世界が訪れる、良い年となることを願っています。



# 肝 癌 の 話

副院長 上 甲 康 二



肝癌は部位別死亡数において、男性5位、女性6位（2020年）で比較的頻度の高い癌といえます。原発性と転移性に分けられますが、原発性も大きく肝細胞癌と胆管細胞癌に分けられます。一般的に肝癌という場合には肝細胞癌を指す場合が多く、B型肝炎やC型肝炎などに合併する癌がこれに当たります。

私が研修医1年目の1981年に愛媛県で第1例目の肝動脈塞栓術が行われました。もちろん研修医ですから治療に参加したわけではありませんが、今でも患者さんの名前や顔を覚えているほど強く印象に残っています。当時は診断

されてからの平均生存期間は3か月と言われていたので、新たな時代の幕開けを感じたものでした。その後、治療法は進歩を遂げ、外科的切除・ラジオ波やマイクロ波などの肝癌局所治療・肝動脈化学塞栓術などに加え、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的薬が使用できるようになり肝癌の生存期間は大きく改善しましたが、依然として根治が得にくい癌であり、基礎的・臨床的な研究の進歩が望まれます。肝癌の原因となる肝炎ウイルスはある程度制御可能な時代となった一方、生活習慣病に伴う非アルコール性脂肪肝炎など非ウイルス性疾患が肝癌の主要な原因になりつつあります。ALTが30IU/L以上の場合は何らかの肝障害があると考えるべきで、健診で異常を指摘された方は気を付けてください。

当院に昨年赴任して、4月から12月までの間に37例の肝癌局所治療を行っています。肝癌の専門的な診療が継続できるようにお力添えを頂いた皆様にこの紙面を借りてお礼申し上げます。お陰様で医療新聞社の「名医のいる病院2023」に「済生会西条病院」を入れて頂き、元気良く新年のスタートが切れました。90ページに載っていますので本屋さんで立ち読みでもして見てください。



**巻頭特集**

最新治療データで探す **名医のいる病院** 2023

完全保存版 あなたの街の頼れる病院が見つかる！

トップレベルの技術を次世代につなぐ名医たち  
がん治療 脊椎脊髄疾患 脳疾患

がん治療最新情報

- がん治療連携拠点病院 (高度型)
- ゲノム医療と遺伝子パネル検査
- 婦人科がん治療の現在を知る

クロスアップ コロナ禍が残したものは  
—— コロナ後遺症外来

独自徹底調査！シリーズ最多  
脳・心臓・5大がん・血液がん・放射線  
**名医709人**

全25疾患・治療別/名医による解説付き  
本誌初公開 最新の手術療法・実績ランキング  
**4983病院 一挙掲載**

mn 医療新聞社

# 肝 臓 が ん の 薬 物 療 法

薬局 佐 伯 綾 香

肝臓がんの薬物療法は肝動注療法と全身化学療法があります。

肝動注療法はカテーテルを用いて肝動脈から直接肝臓に抗がん剤を注入します。がんが肝臓のみにある場合に行われます。

全身化学療法は、局所的な治療で効果が期待できない場合や転移がある場合で肝機能が保たれた患者さんに対して行われます。

2020年にテセントリク® +アバスチン® 療法が日本で適応拡大され、初回治療の第一選択となりました。

2次治療以降ではネクサバル®, スチバーガ®, レンビマ®, サイラムザ®, カボメティクス® が現在使用可能です。

これらは分子標的薬といわれる薬で、がん細胞だけを狙って攻撃するように設計されています。そのため、従来の抗がん剤と比べ、効果が高く、正常な細胞へのダメージが少ないために重い副作用が少ないのが特徴です。

肝臓がんに対する薬物療法はここ数年で大きく変わり、現在も肝臓がんの効果期待される薬剤の開発が進められています。



# 肝 臓 が ん の 食 事 の ポ イ ン ト

栄養科長 越 智 泉

肝臓がんの治療中は、主治医の指示を守って無理をしないで食べられる物を食べるようにしましょう。

## 【ポイント】

- ① 1日3食、主食・主菜・副菜をバランスよく食べる。
- ② 脂肪の多い食品を控える。
- ③ たんぱく質は、大豆製品・魚類・卵。脂肪の少ない肉にする。
- ④ 便秘にならないように、野菜・海藻・きのこ類を積極的に摂る。
- ⑤ アルコールを控える。
- ⑥ 消化をよくするためによく噛んで食べる。



※お食事のことで、不安や疑問に思われることがございましたらいつでもお気軽に声をかけてください。





## 院内学会を開催しました

医療秘書課係長 高岡 真弓

11月5日土曜日午後から4年ぶりの院内学会を開催しました。

WEBでの開催も考えていましたが、感染対策には十分配慮し、講堂で集合型においての開催となりました。

院内学会では業務の効率化や質の向上を目指し、3年間をひとつのサイクルとし、部署毎に目標の立案・実行・結果確認・改善と実行を繰り返す『PDCAサイクル』を実施し、進捗状況を発表しています。今回は各部署からこの3年間の取り組みとその結果が発表されました。コロナ禍で病院全体が集合することが無く、他部署が日々どのような目標を持って業務を行い、改善しているかを知る良い機会になりました。各職種が協力し、業務の効率化や質の改善が、患者さんへの医療・サービスの更なる向上に繋がるように引き続き努力して参ります。



## 部署紹介 施設管理課

施設管理課係長 高橋 明

施設管理課は3名のスタッフで、病院・いしづち苑・特養の「電気・空調・衛生・医療ガス」などの設備維持管理とエネルギー管理を主業務とし、設備機器の日常保守・予防点検・計画修繕により突発的な故障の撲滅を目指し、院内の日常に発生する依頼事項・小修繕へ対応しております。

また、地球温暖化防止のため、患者さんのご理解とご協力のもと院内環境を維持しながら、節電を軸にCO<sub>2</sub>削減を実行しております。

私たちは、各施設を安心して利用していただけるよう心掛け、日々の業務に努めていきたいと思っております。



## オレンジカフェ (認知症カフェ)

西条市地域包括支援センター西条北部管理者 宇佐美 佐緒里

毎月第1土曜日の10時から11時半まで、済生会西条特別養護老人ホームのラ・スリーズでオレンジカフェ (認知症カフェ) を開催しています。コロナの感染状況に悩まされながらも、回数を重ねていくうちにリピーターもできて、毎月元気な姿を見せてくれています。

11月開催のカフェでは『認知症よりそいかるた』をみんなで楽しみました。読み手も参加者、絵札を取るのも参加者です。カルタには認知症のワンポイントアドバイスやプチ情報などを紹介しています。カルタを取りながら「こんな感じなんですね。」「あるある！」などなど遊びながらいろんなことが学べます。

オレンジカフェでは地域の人とのつながりを大切にし、地域住民が誘い合って出かけるような、過ごしやすい居場所づくりをしていきたいと思っています。



## 5階東病棟のリハビリテーション

リハビリテーション科 加藤 克大

リハビリテーション科ではCOVID-19に罹患し5階東病棟に入院された患者さんへリハビリテーションを実施しています。普段とは違う環境で療養される患者さんに状態に応じた運動を行うことで、廃用症候群の予防や日常生活動作能力を改善させ、入院期間の短縮や入院後の生活にスムーズに戻ることを目指します。また、患者さんの身体機能を把握することで入院中の転倒による骨折のリスクを低減するための療養環境を整えることもできます。

5階東病棟でのリハビリテーションを開始するのに際し、事前研修として感染管理認定看護師と5階東病棟の看護師の協力の下、防護服の着脱訓練や感染対策研修を実施しました。開始後も適宜、看護師から助言を受けながら感染対策を十分に行い、安全に配慮しながらリハビリテーションを提供しています。

リハビリテーションに関しては感染リスクが低下し、主治医が必要と判断した患者さんを対象に実施しています。限られた環境の中ではありますが、患者さんの早期の社会復帰を支援できるよう、スタッフ一同努めていきたいと思っております。







## 地域とのつながりで菊観賞に誘われて

老人保健施設いしづち苑係長 奥山博文

地域の方から、いしづち苑から近い民家の庭で菊を育て、一般公開しているとのことで菊観賞のお誘いを受けました。近年はコロナ禍で地域交流や外出支援が少なくなっていたせいもあり、外出できることにいってもたってもいられず、近くにいた数人の入所者の方々に「菊見に行く人っ？」と私が手を挙げると二人の方が「はいっ」と手を挙げ、すぐに羽織るものと膝掛けを準備し、いざ出発！！訪問すると赤、白、黄色の菊が盛大に咲き誇り、加藤様宅のご夫婦が気さくに歓迎してくださり、「もう育て始めて10年近くになります。誰でも見に来てくれると嬉しい、いつでも気にせず見に来てね」と。少人数で数日間にかけて観賞させていただきました。菊を見た入所者の方々は「まあ、綺麗、これは凄い」「立派なねえ」「こんなにたくさんの菊、珍しい」と感極まる方々や、自身の夫が華道教室をしていたことを思い出し、「ああ～綺麗な。主人に見せたい」と涙ぐまれる方等、各々に想いがありました。なかには「もう一回連れて行って欲しい」「昨日はありがとう」と言う方もいました。

菊観賞を通して入所者の方々に楽しんでもらったことだけではなく、少し遠ざかっていた地域とのつながりを持てたこと、菊を見た時の入所者の方々の普段見られない表情を見たり、会話ができたことで職員も楽しく有意義なひとときを送ることができました。



## クリスマスリース作り

特別養護老人ホーム 中野佳弥

ショートステイでクリスマスのリース作りを行いました。職員が用意した飾りを、利用者さんが次々に飾り付けていきます。「のりが指に付くけど、手の運動になるね」と苦戦されながらも楽しみながら作成できました。皆さんご自宅に持ち帰られ、「部屋に飾るね」と言ってくれました。

